

エコ・カレッジ(職域コース)の開講式の実施状況について

本年度のエコ・カレッジは「エネルギー需要にどう向き合っていくのか」をテーマに有識者による講演、事業所の事例発表及びパネルディスカッションなどを行うほか、各分野の専門家による「温暖化防止」、「廃棄物処理」、「省エネ対策」等に関する講演、「地域活性化と環境CSRの事例」など行政・企業・団体の最新の情報を通じて、幅広く環境問題に対する資質の向上を図るとともに、職場におけるCSRのリーダーの養成を目的といたしました。

本年度は、IPCCの各作業部会の報告や新エネルギー基本計画が発表されるなど、私たちの生活に直結してくるカリキュラムもあって、42名の多くの受講生をお迎えしてスタートいたしました。

第1回 開講式

6月26日(木)に第1回目となる開講式を、茨城県と共催で実施しました。参加者がお互いを知り、スムーズなコミュニケーションを行う「アイスブレイキング」で緊張をほぐしたあと、講師の(株)E-Konzal 代表取締役 榎原友樹氏から「地球温暖化防止に向けた方策と持続可能な社会システムに向けて」をテーマに講演をいただきました。地球温暖化の現状とエネルギー消費の実態を理解した上で、私たち市民、企業が取り組めることを議論しました。



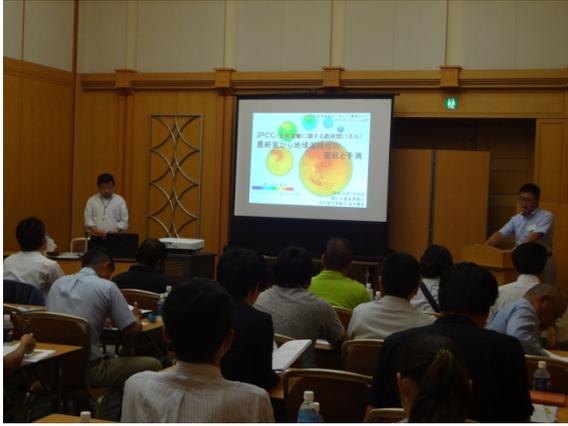
＜関心のある環境問題を相手に伝える＞



＜講演：地球温暖化防止に向けた方策＞

第2回 IPCC第5次報告書に関する講演と省エネルギー対策

7月16日(水)に第2回目となるエコ・カレッジを開催しました。会場をホテル・レイクビュー水戸に移し、第1部は講師を国土交通省 気象庁 水戸地方気象台 滝沢勝彦氏による「IPCC(気候変動に関する政府間パネル)最終案から地球温暖化の現状と予測」をテーマに講演いただきました。日本への温暖化の影響や生態系及び作物への影響を分かり易く伝えていただきました。第2部は(一財)省エネルギーセンター エネルギー使用合理化専門員 風間久生氏による「省エネルギー対策に向けた事業所の取り組みについて」をテーマに講演いただきました。講義を聴講した後、グループ研究を行いました。受講生から提出された提案要旨から問題点を抽出し、具体方策の検討という流れで進めた後、研究成果の発表を行いました。研究成果をそれぞれの事業所で役立てていただければ幸いです。



<第1部 講演の様子>



<第2部 グループ発表の様子>

第3回 低炭素の取り組みと廃棄物関連

8月28日（木）に第3回目となるエコ・カレッジを開催しました。第1部は、「低炭素の取組と地域活性化事業」をテーマに千波湖水質浄化実行委員会 会長 櫻場誠二氏に講演いただきました。千波湖水質浄化を推進するにあたり市民が参加することにより身近に感じてもらえる参加型の事業を企画しながら地域協働に取り組んでいることなどご講演いただきました。

次に当協会主管の茨城県地球温暖化防止活動推進センターが実施している環境省補助事業「地域活動支援・連携促進事業:いばらきスマートムーブプロジェクト」に主体的に取り組まれている、いばらきエコの会 会長 岸倫男氏からご説明いただきました。

第2部では、「廃棄物事業者に係る廃棄物処理の契約書及びマニフェストの作成について」をテーマに(株)日立製作所 日立事業所 環境管理センタ 渡辺孝志氏と鈴木良治氏による講演とマニフェスト作成演習を行いました。最後に、事業者が自ら産業廃棄物の処理を処分業者に委託する場合は、足を運んで視察をして業者を選定することや、マニフェスト等の書類を確実に管理することの重要性を強調され、受講生は熱心に耳を傾けていました。



<作成演習の様子>

第4回 環境保全の取り組みと事例発表会

9月26日（金）に第4回目となるエコ・カレッジを開催しました。

第1部は、(株)リーテム 浦出陽子氏による「茨城発、金属リサイクル企業の首都圏資源循環からアジアのリサイクル高度化への取り組み」をテーマに講演いただきました。金属リサイクルシステムの特徴や小型家電についてのクイズ、海外進出の経験談など、大変分かり易くご説明いただきました。

第2部は、当協会主催の環境対策事例発表会に合流、「新エネルギー基本計画～企業としての着目点～」を主題とし、「日本のエネルギーを巡る環境と企業への影響」をテーマとした講演会とパネルディスカッションが開催されました。ここでは、株式会社日本総合研究所 三木優氏に基調講演していただき、新たなエネルギー基本計画に盛り込まれている原子力発電の規制基準の強化、再生可能エネルギー普及の課題、電力・ガスの自由化の流れ、世界中が注目しているシェール革命などについて説明いただきました。最後に、「この先10年のエネルギーの活用方法が産業構造を大きく変えていくことになる」と結ばれました。

次に、事例発表として下記4事業所から、温暖化防止対策の取組とエネルギー活用の工夫等について発表をしていただきました。

- ・(一財)セブンイレブン記念財団(小野 弘人氏)
- ・(株)ディンプレックス・ジャパン東京本社営業所(新宮 靖広氏)
- ・いばらき自然エネルギーネットワーク(島田 敏氏)
- ・(株)リーテム(浦出 陽子氏)

事例発表の後、三木様にコーディネーターを務めていただき、パネリストとパネルディスカッションを行いました。

パネリストの皆様には、これまで取り組んできた対策に加え、各事業所が抱えている共通課題について発表していただき、コーディネーターの進行でディスカッションを行いました。高騰する化石燃料から、いかにしてエネルギー転換を図っていくべきか、参加者からもアドバイスを求める声もあがるなど、熱心に討議が交わされ、エネルギー問題に対する関心の高が伺えました。この発表会を契機として、皆様の今後の節電や省エネ推進に役立つことができれば幸いです。



<エコ・カレッジの様子>



<環境対策事例発表会の様子>

第5回 企業の環境CSR

10月23日(木)に第5回目となるエコ・カレッジを開催しました。

第1部は「CSRを含めた企業の環境活動」について、会員事業所2社から講演いただきました。

最初に、フットボールクラブ水戸ホーリーホック 代表取締役 沼田邦郎氏より「年間100日のCSR活動から見えてきたもの」をテーマに講演いただきました。市内の幼稚園から小学校に出向いて元気よくあいさつする「おはよう運動」、地域ごみローラーへの参加、キャラク

ターであるホーリー君がイベントやサッカー教室、環境学習会等にも積極的に出向いていることなど、プロサッカーチームとしての役割は「最大限の地域貢献」と宣言する沼田氏の話に受講生は皆、熱狂的なサポーターのように真剣に聞き入っていました。

次に、協栄産業株式会社 代表取締役 古澤栄一 氏より「ペットボトル to ボトルのリサイクル革命」をテーマに講演をいただきました。ペットボトルを「都市油田」と考え、低炭素な国内循環を果たすために新たな技術開発に取り組み、20年の歳月をかけ、日本初の技術開発に成功経緯をお話いただきました。これら長期にわたる研究の成果に対して、昨年度の低炭素杯 2014 では見事に、環境大臣金賞を授与されました。

第2部は、製紙会社の利点を生かしながらバイオマス発電に取り組んでいる「北越紀州製紙株式会社」へ視察に出向きました。職員の方から説明を聞いた後、紙の製造過程やバイオマス発電や太陽光発電を見学しました。



<古澤氏の講演の様子>



<沼田氏の講演の様子>

<北越紀州製紙(株)へ視察の様子>

第6回 国の最新の環境行政

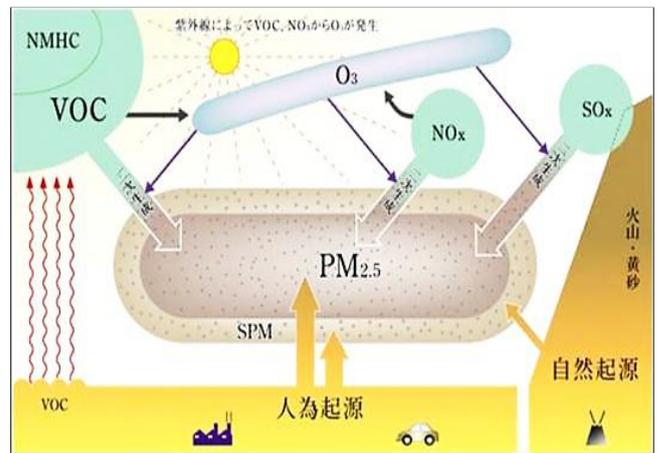
11月26日（水）に第6回目となるエコ・カレッジを開催しました。

第6回目となる今回は、大気環境行政、廃棄物処理・循環型社会の構築及び水環境行政に係わる国の重要課題とその施策について環境省から3人の講師を迎えて講演いただきました。

第1部 我が国の大気環境行政の現状

環境省水・大気環境局大気環境課課長補佐 長濱智子氏

①近年、越境大気汚染物質として話題となっている微小粒子状物質PM_{2.5}の監視データ、健康影響に関する調査研究結果、注意喚起の暫定的指針や国の当面の対応。②平成26年11月21日に中央環境審議会へ答申された「水俣条約を踏まえた今後の大気排出対策」に係る水銀排出規制制度の枠組と規制手法。③アスベスト飛散防止対策、光化学オキシダントの新たな知見など、研究者の報告を受けて法的規制の強化が行われている分野の対策、など詳細に幅広く解説していただきました。



PM_{2.5}の影響について研究者による解明が続く

出典：国立環境研究所「環境儀」

第2部 廃棄物処理・循環型社会の構築

環境省廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課課長補佐 鈴木あや子氏

環境基本法の枠組みの中で2000年に公布・施行された循環型社会推進基本法に基づき、「個別物品の特性に応じた規制」について詳細に説明をされました。次いで、平成25年5月31日に閣議決定された第三次循環型社会形成推進基本計画におけるリサイクルより優先順位の高い2R（リデュース・リユース）の取組がより進む社会経済システムの構築、アスベスト、PCB等の有害物質の適正な管理・処理、東日本大震災の反省点を踏まえた新たな震災廃棄物対策指針の策定、エネルギー・環境問題への対応を踏まえた循環資源・バイオマスの資源エネルギー源への活用、低炭素・自然共生社会との統合的取組と地域循環圏の高度化などについて最新の情報を交えて解説していただきました。



第三次循環型社会形成推進基本計画が閣議決定

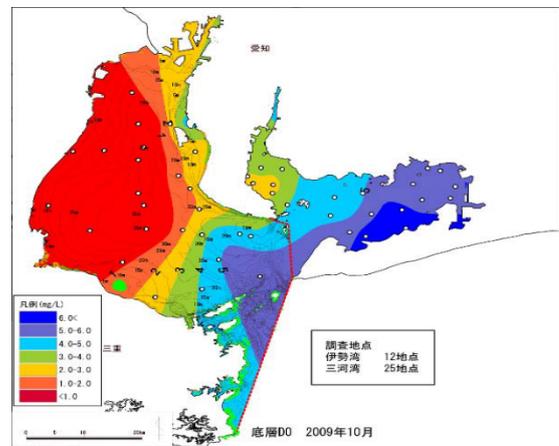


産業廃棄物量の経年推移

第3部 我が国の水環境行政の動向 東北大学大学院工学研究科客員教授 須藤隆一氏
アオコの発生プロセスについて霞ヶ浦をフィールドとして長期的な研究を行ってきた経緯から、中国の太湖の現状と琵琶湖、霞ヶ浦における今後のアオコ対策についての展望を述べられました。さらに近年、クローズアップされている「水生生物保全のための環境基準」について自ら関わってきた背景も交えて、ノニルフェノールやLAS等が法規制とされた経緯や、海洋環境における底層の溶存酸素の目標値設定に関する最新の情報等について解説されました。



水生生物の生息や海域環境全体への悪影響について



底層溶存酸素の目標値設定の例(伊勢湾)

当講座をもちまして、本年度のエコ・カレッジ(職域コース)、全6回の課程を終了しました。本年度は42名が参加し、1月27日(火)に茨城県庁にて閉講式が行われ、知事からの修了証が授与されました。それぞれ自社企業の環境保全や環境CSR推進の担当者としてのご活躍を期待します。なお、修了者は「茨城県地球温暖化防止活動推進員」として委嘱される要件である住所地の市町村長の推薦を受ける資格を有することとなります。委嘱を受けた者は、次年度から企業や地域の温暖化防止に資する活動リーダーとして、温暖化防止の啓発活動を実践することが期待されます。当協会では、次年度のエコ・カレッジに向けての企画をしておりますので、次年度も多くの受講生のご参加をお待ちしております。